



Data

監督・脚本・製作：成龍（ジャッキー・チェン）

出演：成龍（ジャッキー・チェン）
 / 權相佑（クオン・サンウ）
 / 廖凡（リアオ・ファン）/
 姚星彤（ヤオ・シントン）/
 張藍心（ジャン・ランシン）/
 / ローラ・ワイズベッカー/
 劉承俊（ユ・スンジュン）/
 アラー・サフィ/オリヴァー・プラット/施祖男（ヴィンセント・ツェ）

👁️👁️ みどころ

還暦を目前にしたジャッキー・チェンが、ノースタントによるアクションにおさらばする決意を。そんな彼の最後のド派手なアクションは見どころいっぱい！

阿片戦争で英仏に強奪された円明園の財物の中国への返還は重大な問題。しかし、そんな難しいことは横に置き、トレジャーハンターとして十二生肖を探し求めるジャッキー・チェンの勇姿に注目！3人の美女を絡めた冒険とアクションを、タップリと堪能したい。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■還暦を前にした最後のアクションに感激！■□■

長年アクションスターとして活躍し、約100本の映画に出演してきた1954年生まれ成龍（ジャッキー・チェン）が、60歳を目前にして最後のアクションに挑戦！ジャッキー・チェンのアクションはブルース・リーのそれとは違ってユーモアたっぷりのものだが、それでもノースタントによるアクションの危険性は、彼の映画の恒例となっているエンドロールと共に流される撮影風景の一コマを見ればよくわかる。しかして、本作冒頭で、全身にローラーブレッドスーツをまとったジャッキー・チェンが見せるアクションにまずはビックリ！

1961年には将来を囑望された日活の若手アクションスター赤木圭一郎がゴーカートの事故で死亡したが、はいつくばった姿勢で全身をローラーの上に乗せて道路を滑走するアクションはゴーカートをはるかに超える危険があるから、この挑戦はすごい。さらにクライマックスでは、噴煙沸き上がる噴火口に向けて死のスカイダイビングを決行！このジャッキー・チェンのアクションを見れば、作品の出来はともかく、それだけで大感激！

■□■2つのギネス記録も・・・■□■

多才なジャッキー・チェンはこれまでも俳優、監督、脚本、製作等々の仕事を兼ねてきたが、本作では何と出品人、製作、監督、脚本、主演、武術指導、撮影、美術指導、道具、スタント、音楽、照明、場務のマネージャー、主題歌歌唱、ケイタリングコーディネーターという15の職務をこなしたため、それまでの記録の11を塗り替えたらしい。これによって、彼は2012年12月5日上海成龍電影博物館で「一つの映画で最も多くの職務をこなした」という「Most Credits in One Movie」を受賞し、中国映画としてはじめてギネス認定を受けたそうだ。

さらに彼はもう一つ「生涯で最も多くのスタントを演じた俳優」という「Most Stunts by a Living Actor」も受賞し、ギネス認定されたそうだ。以上、これはネット情報からの受け売り。



『ライジング・ドラゴン』2013年4月13日(土)全国ロードショー 配給:角川映画
© 2012 Jackie and JJ Productions Limited, Huayi Brothers Media Corporation and Emperor Film Production Co Limited All rights reserved

■□■本作の製作にはこんな前提が・・・■□■

1840年の阿片戦争の勝利によって、英仏連合軍が北京の円明園から数多くの国宝級の財物を強奪したことは周知の事実。しかし、2009年2月27日「故イブ・サンローラン氏所蔵の美術品のオークションがパリで行われ、阿片戦争時に英仏連合軍が北京郊外の円明園から略奪し、本国に持ち帰った円明園十二生肖獣首銅像の鼠と兎も競売に掛けられ、35億円で落札されました。中国は略奪品なので返還を要求していますが、私の裁判所は認めませんでした。」というニュースが流れた。これを受けて2010年10月、円明園は「円明園文化財の返還運動」を始めた。そして2010年11月19日には、清朝末期に北京の「円明園」から英仏連合軍に略奪された文化財について、大英博物館とヴィ

クトリア&アルバート博物館の館長が「中国と共同研究していきたい」との考えを示した。

本作の製作はそんな近時のホットニュースを前提として行われたものだ。フランスのルーブル美術館やイギリスの大英博物館の展示物はその多くが中国やアフリカ（エジプト等々）からの略奪品だから、一点でもその返還を認めればイギリス、フランスは大変なことになることは明らかだ。映画冒頭に少しだけそんな歴史的説明がなされるが、本作はあくまでアクション娯楽巨編だから、それ以上の学術的な解説はない。しかし、本作を契機にそんな点を少し突っ込んで勉強すれば、もっと面白いはずだ。

■□■金のため？それとも国のため？■□■

本作は円明園から略奪された十二支のブロンズ像十二生肖の返還を求める善意の活動をヨソに、「アジアの鷹」と呼ばれる腕利きのトレジャーハンターであるJC（ジャッキー・チェン）が、それらを探し求める冒険物語。JCらを高額の報酬で雇ったのは、アンティーク・ディーラー大手のマックス・プロフィット社のローレンス・モーガン（オリヴァー・プラット）。JCを使ってすべての十二生肖を探し出し、これをオークションに出品して荒稼ぎしようという魂胆だが、さてJCたちの手腕は？

JCの仲間として登場するのは、①JCの右腕でチームの主要メンバーであるサイモン（権相佑/クォン・サンウ）、②JCのチームの技術専門のデビッド（廖凡/リアオ・ファン）たちだが、彼らの存在感は意外に薄い。逆に本作で目立つのは、①当初JCの「別動隊」として、177cmの長身とビックリするような長い足を活かした足技を見せるボニー（張藍心/ジャン・ランシン）、②19世紀に中国からの財宝強奪に加わったフランス兵士を祖父に持つ、今は没落した女伯爵のキャサリン（ローラ・ワイズベッカー）、そして③ソルボンヌ大学でアンティークを学ぶ中国人学生で、今は愛国心から国宝返却運動の活動家になっている美女ココ（姚星彤/ヤオ・シントン）という3人の女たち。当初は金のために動いていたJCだったが、さて後半からクライマックスにかけての彼の心の変化は？

■□■ああ面白かった！たまにはこんな映画も・・・■□■

ジャッキー・チェン直近の映画である①『1911』（11年）（『シネマルーム27』81頁参照）、②『新少林寺（新少林寺/SHAOLIN）』（11年）（『シネマルーム27』47頁参照）は、いずれも「重たい」映画だった。しかし、その前の『ラスト・ソルジャー（大兵少将）』（10年）は何でもありのメチャ面白い映画ながら、トルストイの『戦争と平和』にも匹敵する深遠な人間観を含んだ名作だった（『シネマルーム25』100頁参照）。

しかして、本作は阿片戦争で英仏連合軍に強奪された財物の中国への返還という「重いテーマ」を背景にしながら、あくまでアクションと娯楽性を追求した作品。したがって、本作を鑑賞するについてはあまりあれこれ考えず、次から次へと飛び出してくる奇想天外なストーリー展開と、その度に魅せてくれる素晴らしいアクションの数々を楽しめばよい。ああ面白かった！たまにはこんな映画も・・・。

2013（平成25）年3月13日記